

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1470501212
法人名	ミモザ株式会社
事業所名	ミモザ横浜永田北
所在地	神奈川県横浜市南区永田北2-16-1 (電 話) 045-730-6026

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市港北区新吉田東5丁目76-35		
訪問調査日	平成20年1月25日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成19年12月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	5 人, 非常勤 18 人, 常勤換算 9.8 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(900,000 円)	有りの場合 償却の有無	○有 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	565 円	おやつ 100 円
	または1日当たり	1,315 円	

(4)利用者の概要(12 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	10 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	金杉小児科内科医院 聖隷横浜病院 和田歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◇ 事業所は、横浜市南区の眺望の良い閑静な住宅地にある。利用者と職員の間信頼関係があり、利用者は家庭的な介護の中で、安らぎのある生活を送っている。
 ◇利用者がペアを組んで掃除を担当するなど、家族の一員としてできる範囲で手伝ってもらっていることが、利用者の生活に張りを持たせている。また、余暇には音楽教室や習字教室を楽しんでもらったり、回想法を取り入れるなど、自立支援を目的とした質の高いケアを目指している。
 ◇特に健康管理と口腔ケアには力を入れており、医師や歯科医が毎月定期的に往診している。
 ◇地域住民との協力関係の強化に努めている。運営推進会議の場を活用することで、地域住民の一人としてのホームの存在を地域に理解してもらっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では、改善点の指摘はなかった。自己評価で、職員の薬剤に関する知識強化の必要性が提起され、薬剤士を講師に依頼して職員研修を実施した。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全員参加の職員会議で評価の意義を説明し、評価項目を分担して職員が評価を行い、管理者が自己評価表にまとめた。自己評価の過程でサービスの仕組みを点検し、サービスの改善に対する職員の「気づき」の強化を図っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は既に4回の実績があり、地域との連携を推進する場として定着している。出席者は家族の代表と自治会長、民生委員、地域包括支援センターの代表である。会議では防災訓練や地域行事の協力体制が議題となり、また、徘徊事例における事故防止と見守り連携について話し合っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年に2回、家族会を開催して家族の意見や苦情を聞いている。管理者が苦情受付の窓口となり、苦情解決委員会を設置して、迅速に苦情処理と再発防止対策を行なう体制を整備している。また運営規定に家族の苦情や意見を積極的に聞き、改善措置を行なうことを明記し家族に説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 平成18年の開設以来、いち早く地域の自治会、町内会に加入し、地域行事に積極的に参加している。老人会の訪問や地域のボランティアも積極的に受け入れている。地域住民の一人として、地域のスーパーや商店、レストランなどを積極的に活用し、地域住民との良好な関係の構築に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の理念にサービスを通して社会に貢献し、温かい家庭の役割やニーズに合った介護を提供することを掲げている。スタッフは、豊かな感性を持ってケアを提供し、利用者が自立した日常生活を送れるよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と年間目標は玄関、リビング及び事務室に掲示している。職員採用時や職員会議で理念を確認し、ミーティングでも実践に近づくよう話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や自治会に加入し、お祭りなどの地域行事に参加している。敬老の日には、老人会より踊りや民謡のサービスがある。1年前からは、折り紙教室などに近隣の方々のボランティアも受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員参加の職員会議で、管理者が評価の意義を説明し、ユニットごとに評価を行なった。職員の評価結果を管理者が自己評価票にまとめた。自己評価の過程でサービスの仕組みを再点検し、理念が具体化されていることを確認して、職員の「気づき」の強化を図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	既に4回開催している運営推進会議の結果を、サービスの向上に積極的に活用している。会議には、家族代表と自治会長、地域の民生委員及び地域包括支援センターの代表が出席した。災害時には、近隣の方々や自治会の皆さんから手伝ってもらったこと、また、利用者の無断外出の際の事故防止などが議題になった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターと連携し、人権擁護に関する地域活動に積極的に参加している。また、区のケースワーカーとも緊密に連携している。 横浜市のグループホーム連絡会や研修会に積極的に参加し、研修の成果をサービス向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に対し毎月定期的に、会計と利用者の生活状況を手紙で伝え、面会時にも、利用者の生活や健康状態を詳細に報告するとともに、金銭管理簿に同意の署名をもらっている。家族からも、きめ細かな連絡で安心できる、との意見が寄せられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の苦情や意見を積極的に聞き、事業所の運営に活かす仕組みを運営規定に明記している。管理者が窓口となり苦情解決委員会を設置して、迅速に苦情処理と再発防止対策を行う体制を整備している。年に2回、家族会を開催して家族の意見や要望を確認している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率は高く、異動を最小限に抑えることで利用者に不安感を与えないようにしている。居室担当制を敷くことで、利用者や職員の馴染みの関係ができていく。職員が交代する場合は、家族と連携してチームワークで利用者への影響が無い様に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成して、市のグループホーム研修に積極的に参加するなど職員の計画的な育成に努めている。また事業法人主催の管理者研修や社内エルダー研修、認知症研修に計画的に取り組んでいる。職員の希望に応じ、研修への参加を積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月実施の横浜市のグループホーム連絡会や、年1回の交換研修を活用して、同業者との情報交流に努めている。また毎月1回、法人内の管理者会議でサービスの改善に関する情報を共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者に対しては、管理者やケアマネージャーが数回面会して、ホームでの生活状況を詳細に説明している。 さらに、ホームを見学してもらい利用者や家族が納得してから入居を決めてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、利用者から食事の献立や味の付け方について教えてもらっている。どんな些細な事でも目標を持って取組むようにし、それができた時は職員と共に喜びを分かち合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、毎日の生活の中から利用者の個々の思いや、希望を把握するように努めている。家族からも要望を聞き取り、アセスメントシートへ記入して、職員間で情報を共有している。聞き取り困難な利用者については、担当職員の意見と家族の意向から汲み取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の残存機能を活かした自立支援に向けて、職員が参加するカンファレンスを毎月開催している。また、カンファレンスには家族にも同席してもらい、個別のケアプランには、家族の意見を反映して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居間もない利用者の介護計画は、小まめに見直しをしている。安定している利用者の方は、毎月内容を確認すると共に、3ヶ月に1回見直しして家族にも提出している。 なお、途中変化が見られたときはカンファレンスで検討して、介護計画を変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊に便宜を図っている。また家族や地域住民を対象に介護教室を開催している。 地域住民を対象に、消防署の協力を得て救急救命講習会を実施したり、リハビリ体操への参加も呼びかけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院の医師が、月に1回往診している。利用者の掛かりつけ医には、家族の希望を尊重して利用してもらっている。歯科医は月に2回往診している。また、毎週歯科衛生士が訪問して口腔ケアを行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業法人の方針で、検討課題となっている。家族と意見交換を行い、終末期介護に対する共通認識を持つように努めている。また、終末期介護のマニュアルを作り、職員の意識化を図っている。	○	現在、医療が常時必要となるまで対応しているが、終末期の介護については、今後の検討課題である。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護規定を事務室に掲示し、職員に守秘義務を周知している。利用者や家族にも入居時に説明し同意を得ている。職員はプライバシー保護に配慮し、不適切な言葉をかけないように注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、食後の片付けや洗濯物干し、衣類の片付けなどの役割をそれぞれの能力に応じて分担している。また、自分に合ったトランプやゲームなどの趣味を楽しんだり、気の合う人との会話やテレビをみたり、各々のペースで過ごしている。職員はそれとなく見守りをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、職員と一緒に1週間単位で献立を作成し、食材の買出に参加するなど食事を楽しんでいる。また、生協の配達も利用し1日30品目を摂取できるように心掛けている。 利用者には、味付けや盛り付け、テーブル拭きや配膳、下膳を手伝っていただいている。 なお、年に2回、利用者の嗜好調査を実施している		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2～3回であるが、利用者の希望の時間帯に入ることができる。柚子湯や入浴剤で入浴を楽しむ工夫をしている。 また、希望に応じて同性介助を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食前のテーブルのセッティングや、食後の片付けなど、利用者の生活歴や能力に応じて張りのある生活ができるように支援している。時には外食したり、また、初詣や節句、花見、紅葉狩り、クリスマス会などの年中行事を毎月行い、生活に変化を持たせ楽しむ工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、利用者のほぼ全員が散歩している。買物を希望する利用者も多い。歩行困難な利用者には、必用に応じて車椅子を利用して散歩にでている。玄関前のベンチで日光浴と会話を楽しんでいる利用者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の周囲には急な坂が多く、安全に配慮し家族の理解を得て、玄関は通常鍵をかけている。フロアの出入にはタッチキーを使用している。無断で外出する利用者があるため、ユニットの出入りは特に注意している。職員は常に利用者の所在を視野に入れ、フロアを離れるときは必ず他の職員に引き継いでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震を想定して、年に2回、避難訓練を実施している。利用者全員が防災頭巾や非常食をいれた避難バッグを所持し、それを持参して避難している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人グループの栄養士から、毎年定期的に栄養バランスをチェックしてもらい献立の指導を仰いでいる。摂食量や水分量は毎日チェックし、バイタルチェック表に記録している。高血圧や糖尿病の利用者には、塩分や食事量に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングで、利用者はテレビを見たり、談笑したり思い思いにくつろいでいる。採光に配慮した大きな窓からは外の景色が望める。通路やトイレ、浴室には手すりを付け、利用者の安全に配慮している。玄関前にはベンチがあり、天候の良い日はほぼ毎日外気を楽しむ利用者もいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者一人ひとりの個性に合った箆笥や思い出の品、写真など多彩である。本を読むために机を置いてる利用者もいる。障子の光が部屋全体を柔らかく包んでいる。室内には温湿度計を設置して利用者の状況に応じて、職員が調節している。足元を照らすルームライトで、夜間トイレに行くとき転ばないように配慮している。		

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社としての理念を基に、各事業所毎の理念を作成して介護サービスの質の向上に努めている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の仕事の中で実践し、スタッフ会や日々の取り組みの中で再確認している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会、運営推進会議でミモザの理念を説明している。また、地域の老人会や町内会の催し物に参加する機会に、理念を理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所とは日常の挨拶や声掛け、散歩や買い物での会話に心がけ、日常的なお付き合いに努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	第5町内会に加入し、自治会費を納入し自治会の一員として回覧板を届けている。助郷祭りや夏祭りにも参加している。地元の人たちに声をかけて頂き交流を深めている。敬老会には老人会より踊りや民謡等のサービスがある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員研修会には、地域の自治会に呼びかけ共に学ぶ機会を提供し(救急法、口腔ケア)、また、地域住民の介護相談にも関わっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をとおしてホームの実態を把握し点検している。外部評価により、サービスの仕組みが働いているか、理念が具体化されているかを再確認し、サービスの質の改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じ、地域社会の一員として、外部の方のご意見や提案を受け入れサービスの向上、運営に心がけている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの行事に参加。「かもめだより」を渡し情報交換し、市町村区と関わりを持ち連携に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業の研修に参加し、拘束防止委員会を開催して、職員スタッフと話し合い意識の向上に努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の人権や個人の尊厳を大切にしている。わがままな態度が見られる個人には、ニーズにあった言葉がけをする等、研修に学んだことをケアプランに活かし、虐待防止を徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時には重要事項説明書をもとに納得いくまで説明を行い、書面にて同意を得ている。契約書等は2通制作し1通ずつお互いに保管している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や面会時、行事等の機会に意見を聞いている。ご家族の意見、希望は、ケアプラン等に反映している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回の会計報告の時に、利用者の日頃の様子を記入して送付している。容態の急変事には必ず電話をいれている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や面会時に家族の意見を聞き運営に活かしている。苦情には、電話の他、直接話しをして理解を求め、速やかに解決している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議やカンファレンス等で、スタッフの意見を聞き運営に活かしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎月の予定は、3日までの希望休？を聞き、スタッフ間の話し合いと協力で立てている。シフト以外にも臨機応変、スタッフの調整に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は最小限に抑え、代わる場合は、ご利用者の負担にならないように、チームワークで普段と変わらない生活ができるよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症介護実践研修、管理者研修に参加している。社内エルダー研修、横浜高齢者グループホーム連絡会の研修や交換現場実習も行い人材の育成に努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会の定例会議や勉強会、施設交換現場実習も行っている。情報交換や共有する機会を通じてサービスの向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>可能な限りスタッフが休暇を取得できるよう配慮している。暑気払い、忘年会を行い、日頃の悩み事を聞いたりしている。休憩時間が取れるよう工夫し取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スタッフのレベルアップや、資格取得の為の情報を提供し、勉強会や研修会の参加を奨励して、発表の場を設けている。勤務の配置、受講料の一部負担も行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族、ご利用者が困っていることを時間を掛けて話を聞き、傾聴と受容に心がけている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>普段の面会の時、家族会、電話等で、予約を取り介護相談や心配事について対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人その人で個別に対応して、在宅支援か、グループホームの入居が適切か、じっくり話しを聞き、適切な助言と支援をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用者が入居にあたり不安がないよう、環境の変化を最小限に済むように配慮している。家具や調度品、茶碗やはし、カレンダーなど慣れ親しんだ物を持ち込んで貰っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の中で掃除を共にしたり、料理の時は、味付けや切り方を教えて頂くこともある。小さなことでも目標を持ち、出来た事による達成感と喜びを共有している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時は、時間を取ってご利用者の様子をお話し、ご家族からの要望を聴取している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外食会、家族会、誕生会に参加して頂き、お互いに話をしながら交流を通して良い関係が築けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の家族や親類、友人、近隣の方との交流がスムーズにでき、長続きできるように暖かな雰囲気作りや環境づくりに努めている。手紙のやり取りについても支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーションへの誘いかけ、下膳の協力やご利用者間での協力に加え、会話がスムーズに運ぶように席の配慮もしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先の病院のソーシャルワーカーへの相談、助言、受け入れ先への相談の仕方をご家族に指導、助言し、ご家族に代わって対応し受け入れ先を探す協力をしている。退居後もいつでも相談に応じ支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの希望、ご家族の思いを聴き、ケアプランの中に反映するとともに、気持ちに寄り添いながら支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のご家族との会話から今までの生活情報を得、個人の生活を大切にしながら支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタルチェック、食事量、水分量、排泄状況をきめ細かく把握し、一人ひとりの過ごし方を考慮している。アセスメント表もケアプランに反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを開き、都合がつけばご家族にも同席して頂き、意見やアイデアを反映したケアプランの作成に心がけている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランのモニタリングは、毎月見直している。3ヶ月ごとにケアプランを制作し、介護計画を更新している。又、身体に変化があった時、カンファレンスを開き状況にあった計画書を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日個人のケース記録に記入し、情報を共有化し、ケアプランに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者の状況を把握するため又、交流をふかめていただくため自由に宿泊をさせていただいている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	救急救命講習会、口腔ケアの勉強会など、地域資源を活用し地域住民の方々に参加を呼びかけ、共に勉強している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	口腔ケア、アメニティサービスを受けている。地域包括支援センター、ミモザみなみ台デイサービス、小規模多機能等の情報交換をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、主に運営推進会議での情報交換や困ったとき助言を得たりして協働に努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の金杉内科医院とは、適切な医療をうけられるよう常に連携し、連絡を取り合っている。緊急時は聖隷横浜病院に相談にのってもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ターミナルケアへの対応については、全事業所で検討中である。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	重度化や終末期の対応については、全事業所で検討中である。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護規程をベースに、ご利用者のプライバシーを損ねるような声かけ、記録等がないよう十分に配慮している。守秘義務を徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出や衣服の好み、調味料の選択、入浴の湯温等で、自己決定ができる場面を作り出し、本人の希望をかなえられるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の一人ひとりの意見を大切に、生活面は起床、消灯時間もその人の意向に応じて対応している。	○
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしく身だしなみや、おしゃれができるよう本人の希望する髪型や、好みの美容院へ行けるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、希望にそった食材、季節にあった食材、美味しい食事を提供するようにしている。味付けや盛り付け、テーブル拭きや配膳、下膳を手伝っていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ、飲み物等は好みの物を聞き、手作りをしたり楽しめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者個々の排泄パターンを把握し、必要な方には声かけ、誘導、見守りを行っている。自力に向けた支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は状況が許す限りご利用者の希望に合わせた時間帯にしている。しょうぶ湯、ゆず湯、入浴剤を楽しまれている。好みの湯温に努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝具類は日干し、シーツ、枕等、清潔で気持ちよく入眠、安眠できるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節ごとの行事や、メリハリのある生活をしている。自分のできる事や、役割を組み入れ、はりのある生活を送れるよう考慮している。趣味や、楽しみごとにも参加していただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の所持についての希望を伺い、個別に対応している。祭りの時はご自分で財布を持っていただき、使えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の希望を取り入れ、散歩や買い物、ドライブ等、気分転換が図れるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と連絡を取り合い、外食会、ドライブ等に出かけたりできるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望を聞き対応している。手紙のやり取りをしている方もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、親族、知人、友人等、馴染みの人たちが気軽に訪問し、利用者と外出ができ、心地よく過ごしていただけるよう環境に配慮している。家族会後の親睦交流の食事会がある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より身体拘束は行わないよう指導しており、スタッフも理解している。拘束廃止委員会を開き教育を行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	普通の家族と同じように玄関を施錠し、ユニットの出入りはタッチキーを利用している。住宅地の崖地に建てられ、周囲は急坂が多く安全面を第一に考えている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフはご利用者の所在を明確に視野に入れ、フロアを離れる場合、必ず代替りのスタッフと交代するようにしている。日中は10時と15時に在席者確認をし、夜間は巡回をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、包丁、洗剤、消毒薬等は常に鍵のかかる所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応はマニュアル化し、提示して職員すべてが対応できるようにしている。防災訓練は年2回お行っている。誤薬のないようチェック体制をマニュアルにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網を作成している。緊急時のマニュアルが有り。救命講習会を実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策は火災、地震、水害等、避難訓練を年2回実施している。地域協力者として町内会長、民生員、家庭防災員の名前を上げてもらっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用者一人ひとりの体調について、面会時や電話で伝え、情報を共有化している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを毎日行っている。常に顔色や体調の変化に注意し、一人の考え、思いだけで判断することなく情報の共有と多角的な見方で対応するよう支援している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは医師の指示に従い、服薬ができるよう支援している。症状に変化が認められた時にはセンター長の指示を受けて対応している。	○	主任薬剤師を招き、薬の副作用について等の勉強会の1月15日に予定している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	散歩やリハビリ体操等、体を動かしたり、腹部マッサージ、繊維質の多い食事ができる献立を心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは朝、昼、夕食後、必ず実施している。口腔ケアの大切さを歯科医師と衛生技師に指導を受けて取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックと排泄状況を把握し、栄養バランス保持に注意している。体重測定を週1回実施している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルにそって対応している。感染症予防マニュアルを全スタッフに配布している。会社からインフルエンザ、ノロウイルスの予防について徹底指導がある。又、ご利用者、スタッフは全員インフルエンザの予防接種をしている。	○	来訪者への手洗い、うがいの遂行。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具等は毎日の消毒し、食材は常に新鮮な物を使用、管理に努めている。冷蔵庫、冷凍庫は1日2回温度チェックを実施。栄養士の方から年2回栄養指導を受けている。衛生面では消毒、滅菌のマニュアルがある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は明るく季節感があり、草花を配置し親しみやすい雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、台所、浴室、トイレ等適切な広さ、明るさと木造でやわらかく親しみやすくしている。居室は障子から適度な光、明るさを取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者同士、談笑できたり、又、孤立しないよう目配り、気配りをしている。居室やフロアでご利用者が思い思いに過ごせるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で過ごしていた環境に少しでも近づけるよう支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室ごとに温度、湿度計を置き、フロアは加湿器を置き、スタッフがチェックし、感染症予防の為に薬を購入し、換気にも注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建屋はバリアフリーを意識して建てられている。トイレ、フロア、浴室への手すりの設置等、ご利用者が安全に生活できるよう使い勝手を工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入口に好みの置物を置き、ご自分らしさをだしている。トイレの場所を大きな字で表示したり、手作りの表札で個々の居室をしめしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置き、そこに座り日光浴や草花を見たり、楽しまれている。水やり、草取り、野菜の収穫もしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の
		②利用者の2/3くらい
		③利用者の1/3くらい
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・美味しい食事を提供している。
- ・利用者、スタッフが共に、年1回の健康診断を行っている。 また、医療関係を充実させ口腔ケアにも力を入れている。
- ・木のぬくもりを大切にされた生活環境であり、ご利用者は安心して穏やかな生活が送れる。
- ・地域の人たちに親しんでもらえるグループホームを目指している。
- ・書道や音楽療法、回想法を行っている。